

東京はくと医療生協の王子生協病院で実施している、女性医師復帰支援プログラム「カトレア」。先月号に続いて指導医である平山陽子さんと、研修医の櫻井奈緒子さんにお話を聞きました。

# 今後の地域医療を担う家庭医には 女性の力が求められている

## 職場全体の子育てへの 意識が変わった

王子生協病院では、女性医師の子育てを支援する復帰支援プログラム「カトレア」を実施しています。通常3年かかる後期臨床研修（以下、後期研修）の内容を3年半から4年程度に伸ばし、子育てしながらでも研修を受けられる制度です。この制度を利用する女性医師をバックアップするため、医師や看護師がチームとして協力しながら、日々の医療にとりくんでいます。

「カトレア」を利用している櫻井奈緒子さんは、「医師や看護師からのサポートだけでなく、患者さんにもご理解とご支援をいただいています。『そろそろ帰る時間じゃないの』と気遣ってもらったり、とても協力的な雰囲気があるんです」と話します。

「カトレア」ができたことで、職場全体で子

育てに対する考え方が変化してきています。実際に、男性医師でも育休を取る人が始めている。

## 地域医療を担う 総合診療医に

医師の後期研修では、内科・外科・産婦人科など、特定の科を選択して専門性を高めていきます。「カトレア」は、家庭医をめざすための後期研修プログラム（2017年から総合診療医も）です。家庭医は、まちの診療所などでその力が活かされています。

指導医の平山陽子さんは、家庭医について次のように説明してくれました。「現在の医療は、従来のよう



平山陽子さん



時間が短いからといって、その責任が軽減されるわけではありません。「カトレア」を利用して、子育てを



櫻井奈緒子さん

## 医療の世界に女性の力が求められている

な臓器の状態だけを診るものではなくなっています。家族構成や家庭環境、経済状況なども含めて、広く診療することが必要になっていくのです。家庭医は、子どもからお年寄りまで包括的な医療ができる地域医療の担い手として今後の活躍が期待されています」

子育ての支援を受けながら家庭医をめざせる「カトレア」プログラムは、今後の地域医療のあり方を考える上でも大変意義のある取り組みです。

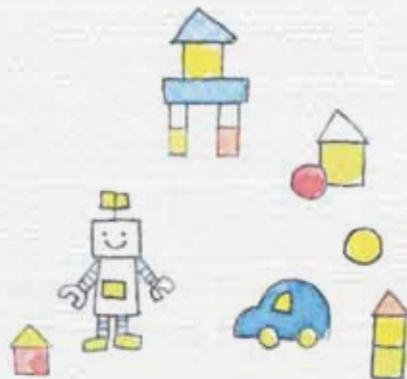
櫻井さんは、「医師の仕事は本来、当直や土日出勤をして、長時間かけて経験を積むことが求められます。私の場合、勤務時間が短い分、医療に携わる時間も少ないので、どうしても経験が追いつかない部分があります」と語ります。

しながら後期研修を全うするのは大変です。櫻井さんが担当する糖尿病教室は、とても楽しいと患者さんから人気があります。子育てを含めた人生経験によってはぐくまれた魅力が、患者さんの心をとらえているのでしょう。

平山さんは、「子育ての経験があったり、人生の様々な経験を持つからこそできる医療があると思っています。特に家庭医は、コミュニケーション能力や生活の実感、患者さんへの共感など、女性の力が必要とされる分野です」と話します。

女性医師の子育て支援制度を充実させることは、様々な患者さんの気持ちに寄り添える医師を育て、より良い地域医療を築くことにつながっていきます。

(編集部)



東京ほくと医療生協  
王子生協病院

〒114-0003  
東京都北区豊島 3-4-15  
TEL 03-3912-2201

<http://t-hokuto.coop/ujiseikyoku-hp/index.htm>